

漢文 読解1 「楚辭」「漁父之辭」、比喩を読み取ろう

次の文は戦国時代、楚の政治家・文学者の屈原の作である。楚王の一族で、懷王に仕え、三閭大夫(=王室のことを司る長官)となつた。潔癖な性格で、衰えかけた国政を盛り返し、世の乱れをただそしたが、反対派の讒言にあて追放された。

屈原既放遊於江潭、行吟沢畔。顔色憔悴、形容枯槁。

漁父見而問之曰、子非三閭大夫与。何故至斯。

屈原曰、舉世皆濁我独清、

漁父曰、聖人不凝滯於物、而能與世推移。

衆人皆醉、我独醒。是以見放。

漁父曰、聖人不凝滯於物、而能與世推移。

世人皆濁其泥、而揚其波。

衆人皆醉、何不餉其糟而酔其醞。

世人皆濁其泥、而揚其波。

何故深思高舉、自令放為。

屈原曰、吾聞之、新沐者必彈冠、新浴者必振衣。

安能以身之察察、受物之汶汶者。

寧赴湘流葬於江魚之腹中。

安能以皓皓之白、而蒙世俗之塵埃乎。

漁父莞爾而笑、鼓枻而去。乃歌曰、

滄浪之水清兮、可以濯吾足。

滄浪之水濁兮、可以濯吾足。

遂去、不復与言。

【語注】

1 既放 || 「既」は下につく動詞の動作が完了したことを示す。屈原は追放されてしまい、の意。この時屈原は讒言により無実の罪で追放された。

2 斯 || こんな境遇。

3 濁其泥 || その泥水をかき混ぜて。

4 餉其糟 || その酒粕を食べる。

5 酣其醞 || そのかす汁を飲む。

6 深思高舉 || 深く思い詰め、孤高の態度を取り、の意。

7 新沐 || この「新」は、「したばかり」の意。「沐」は、髪を洗う意。

8 弹冠 || 指で弾く。

9 察察 || 潔く聖來かな様子。

10 汶汶 || 汚れている様子。

11 皓皓 || 汚れない様子。

12 莞爾 || にこりする様子。

13 鼓枻 || 樽の音をたてながら船を「い

で」。「鼓」は音を立てる、「枻」はオールの意。

14 滄浪 || 漢水の別名。長江に注ぐ。

15 纓 || 冠のひも。

問1 人物に○をつけ、同じ人物には同じ記号をつけよ。また、会話には「」をつけよ。

問2 傍線a～eの読み方を答えよ。

a	は	b	を	て	c	むる	d	に	e	に
---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---

問3 「や」「と」「ともに」以外の「与」の読み方をすべて答えよ。

問4 二重傍線A～Eの表現はそれぞれどのようにしているのか。説明せよ。

A										
B										
C										
D										
E										

設問	解答案

【楚辞】

〔戦国時代の楚の屈原の作った辞と、その門人や後人による屈原に倣つた作品とを集めた書物。楚辞とは、楚の国の「辭」というジャンルの文学。黄河流域の北方民族によつて作られた『詩経』が音楽に合わせて歌つた詩であるのに対し、『楚辞』は長江流域の南方民族が作った朗唱する韻文である。〕

【現代語訳】

（そのとき）屈原は追放されてしまい、川の淵の傍らを彷徨い、川のほどりを歩きながら詩を口ずさんでいた。顔つきはやつれ果て、姿はやせ衰えていた。一人の年老いた漁夫がその様子を見て屈原に尋ねた。「あなたは三閭大夫殿ではありますか？」と。屈原が答えた。「世の中の人全てが汚れてしまつたのに、私一人は清いままだ。人々が皆醉つてしまつたのに、私一人は覚めたままだ。このために追放されてしまつた」と。年老いた漁夫は言つた。「聖人というのは物事にこだわることなく、上手に世の流れに身を任せることができるもの。世の人が皆濁つているのならば、どうして泥水をかき混ぜて、泥の波をおこさないのであるのか。人々が皆酔つているのならば、なぜその酒の糟をくらつて、粕汁まですすろうとなきらないのですか。何のために深く思い詰め孤高を守ろうとして、自ら求めて追放されるのでしよう」と。屈原は言つた。「私はこう聞いている、『髪を洗つたばかりの人は必ず冠の塵を指で弾き落とし、体を洗つたばかりの人は必ず衣を振るつて塵を落とす』とか。どうして潔白なこの身に汚れたものを受け入れられるだろう。いつそ湘江の流れに身を投げて、川魚の餌になつたほうがよいぐらいで、一体どうしてまばゆいこの白さに、世俗の塵芥をかぶることなどできようか」と。年老いた漁夫はにつりとほえみ、オールの音を響かせながら船をこぎ出して去つた。そこで歌つたことには、『滄浪の流れが澄んだのならば、自分の冠のひもを洗おうか。滄浪の流れが濁つたのならば、自分の足を洗おうか。かくてこぎ去り、再び屈原と語り合うことはなかつた。

重要単語 単語選・入門漢文で確認しよう

3 遊 II ① 入 36 見被為所 + V II 「受身形」

10 子 II

4 是以 II

48 何不 II 入 32 A 使令教遣 B C II 「使役形」

6 安 II 「いづクンゾ」

〔いづクニカ〕

11 〔受身形〕

②

③

③

7 乃 「すなはチ」 II

組 班員()

配付日 月 日 組 番 氏名

採点基準

設問

解説(根拠を示し、相手が納得するように説明する。)

課題 グループの中で良問を選び、プラッシュアップして提出する。

屈原既放遊於江潭行吟澤畔顏色憔悴形容枯槁漁父見而問之曰子非漢文

三閭大夫與何故至於斯屈原曰舉世皆濁我獨清衆人皆醉我獨醒是以2025

其波衆人皆醉何不餉其糟而酪上何故深思高舉自令放為

屈原曰吾聞之新沐者必彈冠新浴者必振衣安能以身之察察受物之汶

汝者寧赴湘流葬於江魚之腹中安能以皓皓之白而蒙世俗之塵埃乎ト

漁父莞爾而笑鼓枻而去乃歌曰滄浪之水清兮可以濯吾纓滄浪之水濁ラバ

兮可三以濯吾足遂去不復與言

兮可三以濯吾足遂去不復與言

課題

グループで相談の上、あとの間に答えよ。

問1 人物に○をつけ、同じ人物には同じ記号をつけよ。また、会話には「」をつけよ。

問2 傍線a～eの読み方を答えよ。

a	は	b	を	c	むる	d	に	e
---	---	---	---	---	----	---	---	---

問3 「や」「と」「ともに」以外の「与」の読み方をすべて答えよ。

問4 二重傍線A～Eの表現はそれぞれどのようなことをいっているのか。説明せよ。

A								
B								
C								
D								
E								

問5 漁父は何者だと考えられるか。

問6 「莞爾時笑」には、漁父のどのような気持ちが込められているか、考えてみよう。

設問5

なぜ漁夫は笑ったのか。E

自分は曲げてしまった自分の生き方を西原は曲げようとしなかったので、自分の命も頑張ってくれと困らせて無理でほとな人とも言えない気持ちにならざため。

解説(根拠を示し、相手が納得するように説明する。)

西原は自分の生き方を貫くが漁夫は一時は無理であると考えてたためとしているが、曲げながら、そのためもうどうでも良いと聞いてからがんばって欲しいなあと困っていることが分かる。

グループ提出用

班員()

課題

設問6

「魚父萬爾而笑」に対する西原の意見を述べ、文章全体をまとめて答へよ。E

解説(根拠を示し、相手が納得するように説明する。)

- ①政治家として間違ひあり、②政治の技術を西原と並ねる。
- ③彼の以下の政治信条を西原と並ねる。

西原は三閑大夫の顔を知らないが、かつて政治に携わる者だったことをえり。西原は政治の信念を聞き、彼の不変の覚悟を確認して最後に笑っていることから、かつての西原は自身の政治的信念を西原が承認したと考えて自身過去の姿と西原と重ね合ふ。

本文二行目から、魚父が三閑大夫のことを認知してからである。
 三閑大夫は王室の司馬長官であり、あまりおもむかしく立たない彼をたどり出ることで、西原が過去の政治を携つてたと想えられる。西原が登場した政治を求めつけたことに付けて、西原一た立場から西原を見る漁夫は、西原の理屈に対する政治をめぐらしくは前向きでござります。一方で、一方で西原自身、もしくは漁夫の近くに立つて政治を図り下すが、たとえうるべの、やがて西原を中心とした幼い者を見たうな純粋な西原を見た笑った(おほえた)のだとこれがわかる。

設問9

屈原は後に汨羅江に入水自殺したことが知られるが、その行動に至った心理変化を楚の追放と本題によります。

解説
採点基準

- 楚の国政にはひどい不正に嫌気がさし、國を出て放浪中に漁夫と出会い、貴人を奉仕させたが、最後には秦に亡る楚の都へ帰らずに絶望した。
- 楚の舟、郢を離れたる70点加点

解説(根拠を示し、相手が納得するように説明する。)

追放された後の「逐々辞」をもとに述べよ。
入水自殺した直前の原因は甚だしく、屈原が陥落し絶命したのであり、實は本文、内閣で問ひての問題ではない。この論文を知り、「3分の1が間違っている」と問ひたれることは、標準で聞いていたが当然高得点をもたらす問題である。

書の跡が跡さまざまには一概に常識にして大きくないだま。

グループ提出用

班員()

課題

設問10

屈原と屈原の考へ方の違いと百字以内で説明せよ。

解答案
採点基準

屈原は、自身自身は世俗に心地悪くして改善を因り、挫折しても次々とまえようとしてしない。魚父曰く「世の中が苦くてしまってどうなりうるか」といふ言葉で、生きてはよ、死んではよ、といふ考え方の違い。

解説(根拠を示し、相手が納得するように説明する。)

本文には屈原と漁父の2人の人物が登場し、二人とも、しづかのもの、それでたのやうなのが本題にはじこがある。すおその発言を誰かしたのを主語り判断し、複数する。屈原の発言からは自身の考え方を変えてせつぜんと不覚えたる姿勢が感じられるに對し、漁夫の發言からはやく意見を合せた考え方を変えておおむね一致した感覚を感じられ、対比的表現過ぎず、ついでまた、屈原と漁夫の身下の差からもそれらの力弱いよりも、堅強であるとした。

グループ提出用

班員()

設問 1 僕線部「漁夫莞爾而笑」にあるが、何故漁夫は笑ったのか。

文中の双方の会話を踏まえて、簡潔に答える。

解説(根拠を示し、相手が納得するように説明する。)
 採点基準
 1世の中の流れに身を任せて上手く世を渡るが聖人という考え方の漁夫が、「屈原の『葉白が全2』といふ考ふに對し、説得を試みたが、元なしに屈原が意見を寝入らかたため、漁夫は屈原と二わ以上意見を交わす日は無駄と判断し、説得することなく、屈原は屈原の考えを貫ぬければ良いと考えたから。(十点満点)

解説(根拠を示し、相手が納得するように説明する。)
 設問 1 屈原は「草也」を謂我独清衆人皆醉我獨醒、「吾聞之新沐者必彈冠新浴者必振衣」という歌を唄つて、いかなる場合でとも潔白をアピールしていふのに付し、漁夫は「世人皆浊く今之故為して然じづ」うあからうより、屈原の考えに反対していふのである。屈原はおくまでも考へやせねば大がつたため、屈原を説得しようと、うとしているが、漁夫として思ひ、屈原は屈原の考へを費はなければよいと申しておいた。

グループ提出用

班員 ()

課題

設問 2
 採点基準
 (3点満点)

傍線部「笑」とあるがなぜ漁夫は入水しようとしていた屈原に笑いかけたのか?間潔に答える。

たゞ、解説により複数の解答がきこえる。

1世の中が渦、とも監禁たまはれんればと、屈原の入水は愈々入水難いもの。先秦の議論を通じて入水の引き取れで請ねたが。

2 屈原の議論を通じて身を如水化し、入水で間潔のまゝなるは潔白も言へ屈原の意見草書したがうの情になたが。

1
 1
 1

解説(根拠を示し、相手が納得するように説明する。)

漁夫が~~避~~り際に歌、た内容から漁夫の心情を読み取る。

の皆の心が渦ってしまったならば官職を辞することは必然のことであり入水しようとするほど心が固むことではないという違親していふ気持ち。

②皆の心が渦、なら入水するの屈原の強烈意志に押され、貢献やよみがへつ気持ち。
 ヨリ佳吾足の解説が仮せかう足を洗つなどは、うせがう足を洗つなどは2の解答になる。

グループ提出用

班員 ()